FWx FireWire
レコーディング / プレイバック オプション・カード

VENUE システム用

デジデザイン　アビッドテクノロジー株式会社

〒 107-0052 東京都港区赤坂 2-11-7
ATT 新館ビル 4F
tel: 03.3505.7963
fax: 03.3505.3417

テクニカル・サポート
tel: 03.3505.4762
fax: 03.3505.3417
email: tsjp@digidesign.com

カスタマー・サポート
tel: 03.3505.7963
fax: 03.3505.3417
email: csjp@digidesign.com

製品情報
tel: 03.3505.7963
email: infojp@digidesign.com

Web Site
www.digidesign.com

digidesign

9321-58786-01 REV A 2/08

法律に基づく表示

© 2008 本書の著作権は Avid Technology, Inc. の事業部 Digidesign（以下「Digidesign」）に帰属します。著作権法に基づき、Digidesign の書面による同意なくして、本書の一部または全部を複製することはできません。

003, 003 Rack, 96 I/O, 96i I/O, 192 Digital I/O, 192 I/O, 888|24 I/O, 882|20 I/O, 1622 I/O, 24-Bit ADAT Bridge I/O, AudioSuite, Avid, Avid DNA, Avid Mojo, Avid Unity, Avid Unity ISIS, Avid Unity MediaNetwork, Avid Xpress, AVoption, AVoption|V10, Beat Detective, Bruno, Command|8, Control|24, D-Command, D-Control, D-Fi, D-fx, D-Show, DAE, Digi 002, Digi 002 Rack, DigiBase, DigiDelivery, Digidesign, Digidesign Audio Engine, Digidesign Intelligent Noise Reduction, Digidesign TDM Bus, DigiDrive, DigiRack, DigiTest, DigiTranslator, DINR, DV Toolkit, EditPack, Impact, Interplay, M-Audio, MachineControl, Maxim, Mbox, MediaComposer, MIDI I/O, MIX, MultiShell, OMF, OMF Interchange, PRE, ProControl, Pro Tools M-Powered, Pro Tools, Pro Tools|HD, Pro Tools LE, QuickPunch, Reel Tape, Reso, Reverb One, ReVibe, RTAS, Smack!, SoundReplacer, Sound Designer II, Strike, Structure, SYNC HD, SYNC I/O, Synchronic, TL Space, Velvet, and X-Form and Xpand! 以上は Digidesign および / または Avid Technology, Inc. の商標または登録商標です。その他の商標はそれぞれの所有者に帰属します。

製品の機能、仕様、システム要件、供給は予告なく変更することがあります。

9321-58786-01 REV A 2/08

本書に関するご意見・ご提案がありましたら以下のアドレスに E メールをお送りください。techpubs@digidesign.com

通信と安全規則

遵守

本機種 Digidesign の FWx FireWire オプション・カードは、干渉および EMC を規定した以下の標準規格を遵守しています。

- FCC Part 15 Class B
- EN 55103-1 E3
- EN 55103-2 E3
- AS/NZS 3548 Class B
- CISPR 22 Class B

ラジオおよびテレビの干渉

本機器は、FCC 規則第 15 部によるクラス B デジタル機器の制限に適合することがテストによって確認されています。

準拠宣言

私共 Digidesign
2001 Junipero Serra Boulevard, Suite 200
Daly City, CA 94014 USA
tel: 650-731-6300
は以下の製品が FCC 規則第 15 部に従うことを宣言します。
FWx FireWire オプション・カード

動作は下記の 2 つの条件に従って行われます。(1) 本機器は有害な干渉の原因とはならず、(2) 本機器は不要な動作の原因となる干渉を含む如何なる干渉をも受容します。

通信

注記：本機器は、FCC 規則第 15 部によるクラス B デジタル機器の制限に適合することがテストによって確認されています。これらの制限は本機器が住宅に設置されたときに有害な干渉に対して妥当な保護を提供するよう定められています。本機器は無線周波数エネルギーを生成し、使用し、放射します。取扱説明書に従って正しくインストールおよび使用しなければ無線通信に有害な干渉を与える原因となります。絶対に干渉が起きないことを保証するものではありません。本機器の電源のオンとオフを切り替えることによって本機器がラジオやテレビの受信に対する有害な干渉の原因になっていることが確認できた場合は、以下のいずれかの手段で干渉を緩和してみてください。

- 受信アンテナの方向を変えるか設置場所を変える。
- 本機器と受信機を離して設置する。
- 本機器と受信機の電源を別々のコンセントに接続する。
- ラジオ / テレビの販売店または専門の技術者に相談する。

Digidesign FWx FireWire オプション

Tested To Comply with FCC Standards

FOR HOME OR OFFICE USE

Digidesign の許可なく本機器を改造すると、本機器を使用する権利が無効になる場合があります。

遵守（カナダ）

このクラス B デジタル機器は、カナダの ICES-003 を遵守しています。

Cet appareil numerique de la classe B est conforme a la norme NMB-003 du Canada.

遵守（オーストラリア）

ACN 069 650 120

遵守（ヨーロッパ）

CE 97

目次

第 1 章 概要 1

FWx の性能と 機能 1

FWx のコンポーネント 1

システムの必要条件 1

凡例 2

第 2 章 FWx をインストールする 3

FOH ラックへ FWx カードをインスト ールする 3

FWx カードの FOH ラックへのインスト レーショ ンを確認する 5

ミックス・ラックへ FWx カードをインスト ールする 6

FWx カードのミックス・ラックへのインスト レーショ ンを確認する 8

VENUE システムの電源と Pro Tools 9

Pro Tools LE をインスト ールする 9

FWx と Pro Tools LE の旧バージョ ンを使う 9

第 3 章 FWx を使う 11

概要 11

FWx でレコーディ ングするための D-Show のシグナル・ルーティ ング 11

FWx でプレイバックするための D-Show のシグナル・ルーティ ング 13

同期とタイムコード 14

第 1 章：概要

VENUE システム用 FWx FireWire レコーディング / プレイバック・オプションをご利用いただきましてありがとうございます。FWx オプションは Digidesign の VENUE システムと Pro Tools LE システムを統合し、ライブ演奏中の Pro Tools のプレイバックやライブ演奏のレコーディングを可能にします。

FWx オプションのレコーディングとプレイバックの機能を組み合わせれば仮想のサウンドチェックもできます。前日にレコーディングしたトラックをプレイバックすれば、本番やリハーサルの前にミックスを調整できるわけです。

FWx の性能と機能

FWx オプションには以下の機能があります。

- VENUE システムと Pro Tools LE を使っているコンピュータとのデジタル接続（24 ビット、48 kHz）
- 最大 18 チャンネルのデジタル・オーディオの Pro Tools へのレコーディング
- 最大 18 トラックの Pro Tools のプレイバック
- Windows XP、Vista、Mac OS X 対応
- 標準の FireWire ケーブルによる接続

FOH ラックまたはミックス・ラックにインストールできる FWx カードは 1 つだけです。

FWx カードと HDx TDM オプション・カードを同時にインストールすることはできません。

FWx のコンポーネント

FWx オプションのパッケージには以下のアイテムが入っています。

- FWx カード（VENUE の FOH ラックやミックス・ラックにインストールする）
- FWx カードのリボン・ケーブル
- Pro Tools LE ソフトウェア
- Digidesign オンライン登録カード

FWx FireWire オプション・カード

システムの必要条件

FWx オプションを VENUE システムで使うためには以下が必要です。

- Windows XP、Vista、または Mac OS X を稼動している FireWire 対応コンピュータ。
- Pro Tools LE のバージョン 6.7 以降（Windows）またはバージョン 6.9.2 以降（Mac）。Digidesign の Pro Tools LE 用ハードウェアは必要ありません。

必要条件について詳しくは、Digidesign のウェブサイト（www.digidesign.com）をご覧ください。

互換性

Digidesign は、Digidesign が動作確認を行ったハードウェアとソフトウェアに対してのみ互換性を保証し、サポートを行います。

Digidesign が動作を保証するコンピュータ、オペレーティングシステム、ハードディスク、他社の機器については、Digidesign のウェブサイト（www.digidesign.com /compatibility）に掲載されている最新の一覧表をご覧ください。

凡例

Digidesign のガイドでは、D-Show と Pro Tool のメニューの選択やキー・コマンドを以下の凡例に従って示します。

凡例	アクション
[ファイル]>[上書き保存]	**Pro Tools で、[ファイル] メニューから [上書き保存] を選択します。**
Options > System Config	**D-Show のソフトウェアの画面で、[Options] をクリックして [Options] ページを表示し、[System Config] タブをクリックします。**
Ctrl+N	**Control キーを押したまま、N キーを押します。**
Ctrl- クリック	**Control キーを押したまま、マウスをクリックします。**

文中のマークは、以下の内容を表しています。

D-Show システムを活用するために役立つヒント

データまたは処理能力に関わる重要な情報

キーボードやマウスを使ったショートカット。

D-Show や ProTools の他のガイドの関連セクションを示すクロスリファレンス。

第 2 章：FWx をインストールする

VENUE システムで FOH ラックを使っている場合は 3 ページの「FOH ラックへ FWx カードをインストールする」をお読みください。

ミックス・ラックを使っている場合は 6 ページの「ミックス・ラックへ FWx カードをインストールする」をお読みください。

Pro Tools LE のインストレーションと互換性については 9 ページの「Pro Tools LE をインストールする」をお読みください。

FOH ラックへ FWx カードをインストールする

このセクションでは FOH ラックへ FWx カードをインストールする方法を説明します。FOH ラックへインストールできる FWx カードは 1 つだけです。

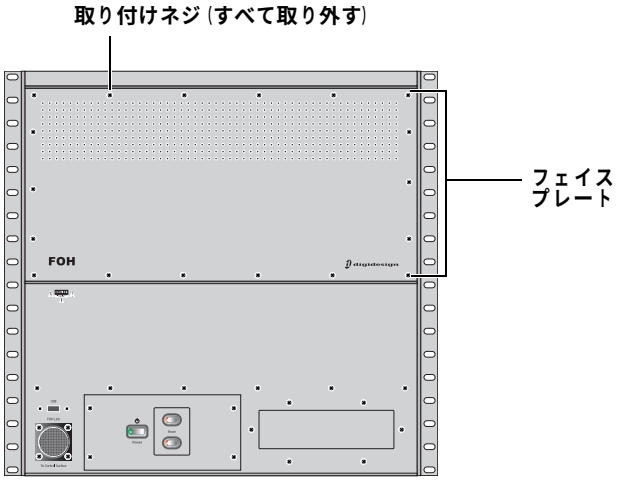
FOH ラックに FWx カードをインストールするには：

1 音響システムをシャットダウンします。

2 FOH ラックの電源を切ります。

3 FOH ラックへ接続している電源、FOH リンク、オーディオ、MIDI の各ケーブルを外します。

4 取り付けネジ（#1 プラス）を外して、フロントパネルのフェイスプレートを取り外します。後でフロントパネルを取り付けるのに使いますから、ネジは傍に置いてください。

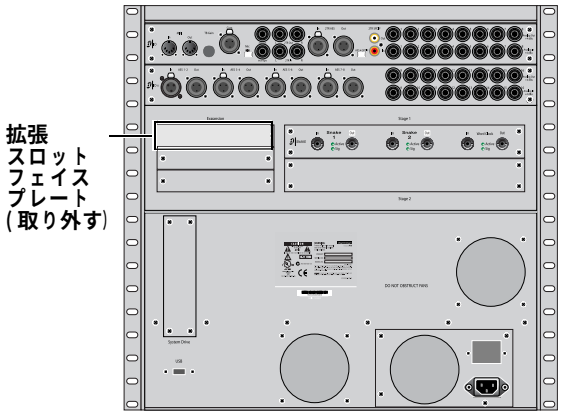


FOH ラックのフロントパネル

5 HDx TDM オプション・カードがシステムにインストールされている場合は、そのリボン・ケーブルを外し、カードを取り外します。

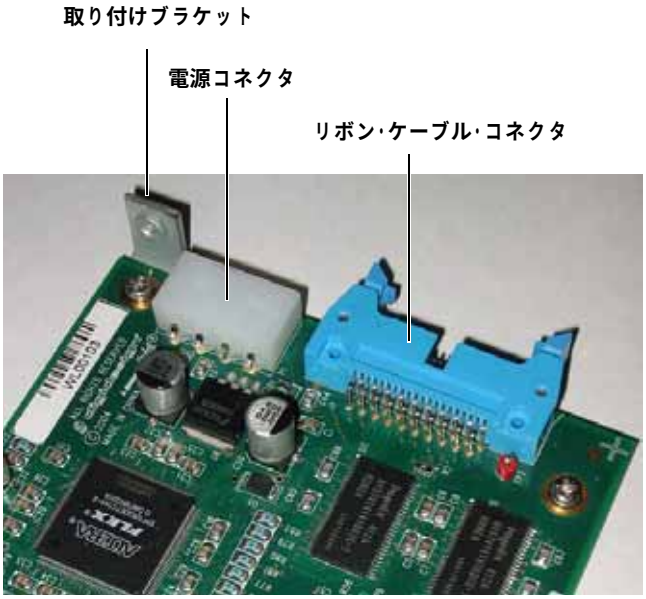
⚠ *HDx カードと FWx カードを同時に FOH ラックにインストールすることはできません。*

6 FOH ラックのバックパネルにある拡張スロットの1つのフェイスプレートを外します。後で FOH ラックへ FWx カードを固定するのに使いますから、ネジは傍に置いてください。



FOH ラックのバックパネル

7 FWx カードを梱包材から取り出します。カードの端を持ちます。



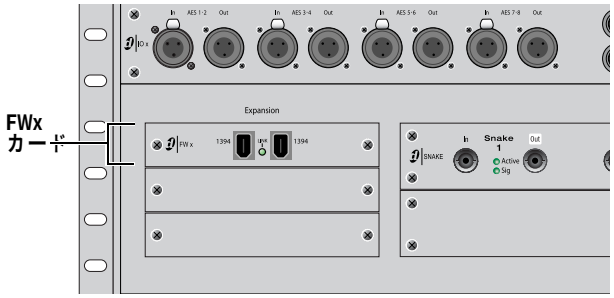
FWx カードのブラケットとコネクタ

8 カードを拡張スロットの中へゆっくりスライドさせます. 上下の向きが正しいことを確認してください。

FOH ラックに FWx カードをインストールする

9 カードがスロットに収まったら、FWx の取り付けブラケットのネジで FOH のシャーシに固定します（FOH の開いたフロントパネルから）。

10 フェイスプレートをとめていた 2 つのネジを使って FWx カードを FOH ラックのバックパネルへ固定します。

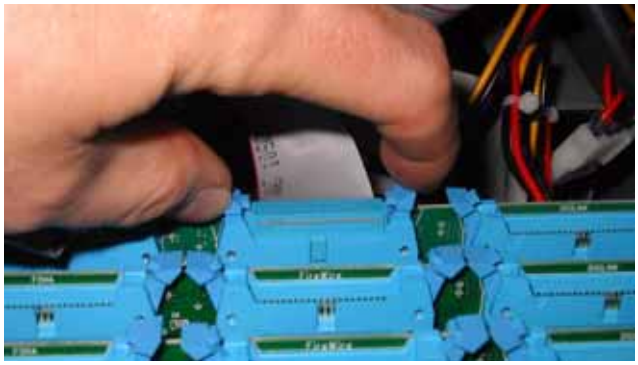


FWx カードを FOH ラックのバックパネルへ固定する

11 内部の電源ケーブルのプラグを FWx カードの電源ソケットに取り付けます。FWx のソケットを持ってプラグをソケットの中へしっかりと押し込んでください。

電源ケーブルのプラグを FWx カードへ正しく取り付けると、黄色の電線が一番左側になります。

12 1 番めのミックス・エンジン・カード（開いたフロントパネルから見て 1 番後にあるカード）の [FireWire] と表記されたリボン・コネクタ・ソケットへ付属のリボン・ケーブルを取り付けます。コネクタを取り付けるとき、リボン・ケーブル・コネクタのノッチを手前にしてください。



ミックス・エンジン・カードへリボン・ケーブルを取り付ける

13 リボン・ケーブルのもう一方を FWx カードのリボン・コネクタ・ソケットへ取り付けます。ケーブルを取り付けるとき、リボン・ケーブルのコネクタのノッチを上向きにしてください。

FWx カードへリボン・ケーブルを取り付ける

14 FOH ラックのフェイスプレートをネジで取り付けます。

15 電源、FOH リンク、オーディオ、MIDI の各ケーブルを FOH ラックへ接続します。

16 システムのすべてのコンポーネントの電源を入れます。5 ページの「FWx カードの FOH ラックへのインストレーションを確認する」に進んでください。

FWx カードの FOH ラックへのインストレーションを確認する

FWx カードを FOH ラックへインストールしたら、カードが正しくインストールされているか確認できます。

FWx カードのインストレーションは以下の方法で確認します。

1 D-Show ソフトウェアで、[Options]>[Devices] ページへ移動します。

2 FOHラックにFWxカードが表示されていることを確認します。正しくインストールされていれば、FWx カードが認識され、画面上の FOH ラックの右下に [FWx] が表示されます。

[Devices] ページの FOH ラックのアイコンに表示された FWx カード

FWx カードが表示されない場合は、システムの電源を切って、すべてのケーブルと接続をチェックしてください。

ミックス・ラックへ FWx カードをインストールする

このセクションでは FWx カードをミックス・ラックへインストールする方法を説明します。ミックス・ラックへインストールできる FWx カードは 1 つだけです。FWx カードと HDx カードを同時に使用することはできません。

FOH ラックへのインストレーションについては 3 ページの「FOH ラックへ FWx カードをインストールする」をお読みください。

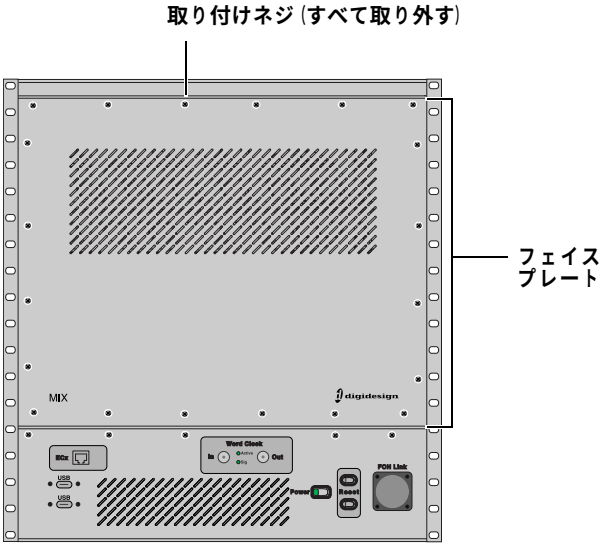
ミックス・ラックに FWx カードをインストールするには:

1 システムをシャットダウンします。

2 ミックス・ラックの電源を切ります。

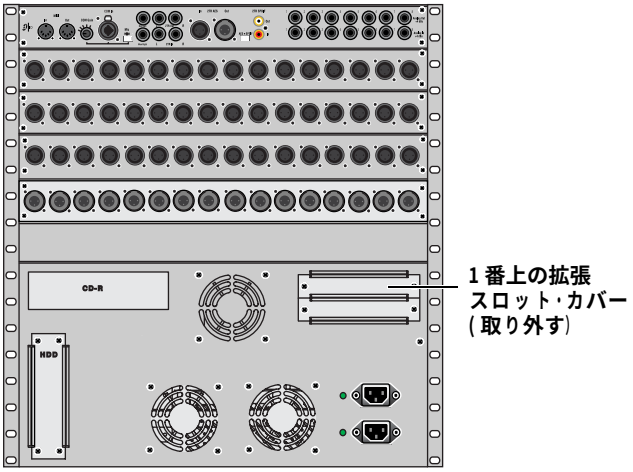
3 ミックス・ラックへ接続されている電源、FOH リンク、オーディオ、その他の各ケーブルを外します。

4 取り付けネジ（#1 プラス）を外して、フロントパネルのフェイスプレートを取り外します。後でフロントパネルを取り付けるのに使いますから、ネジは傍に置いてください。



ミックス・ラックのフロントパネル

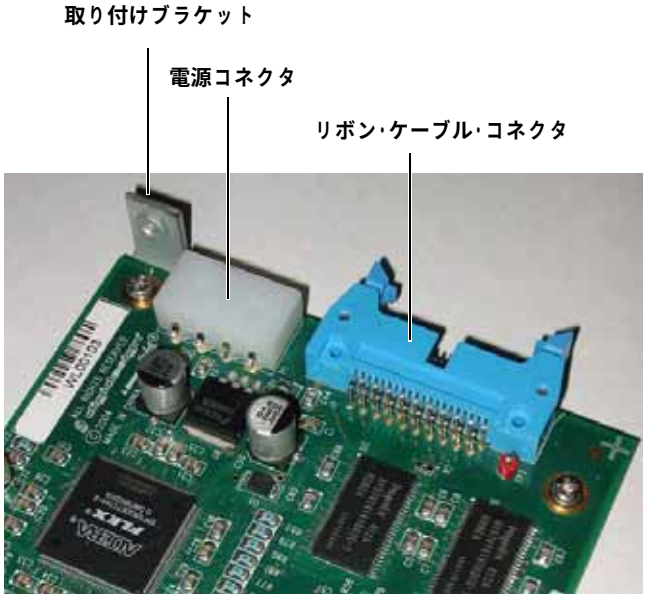
5 ミックス・ラックのバックパネルにある 1 番上の拡張スロットのカバーを外します。FWx カードをミックス・ラックへ固定するのに使いますから、ネジは傍に置いてください。



ミックス・ラックのバックパネル

FWx カードをインストールできる拡張スロットは 2 つありますが、インストレーションがより簡単な 1 番上のスロットにカードをインストールすることをお勧めします。

6 FWx カードを梱包材から取り出します。カードの端を持ちます。



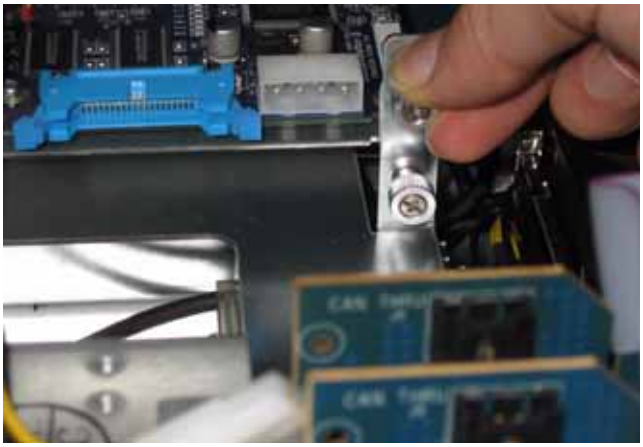
FWx カードのブラケットとコネクタ

7 カードを拡張スロットの中へゆっくりスライドさせます。上下の向きが正しいことを確認してください。

ミックス・ラックのバックパネルへ FWx カードをインストールする

8 拡張スロットのカバーをとめていたネジを使って FWx をミックス・ラックのバックパネルへ固定します。

9 つまみネジを締めて FWx カードをミックス・ラックへ固定します（ミックス・ラックの開いたフロントパネルから）。



FWx カードをミックス・ラックのシャーシへ固定する

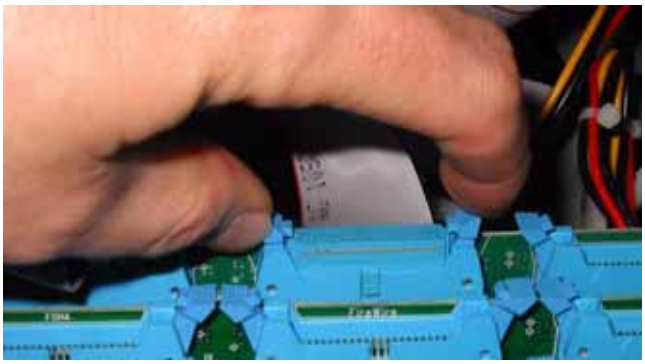
10 電線を切らないよう気をつけながら、拡張カードの電源ケーブルをシャーシに固定している結束バンドを切断します。

拡張カードの電源ケーブルの結束バンドを切断する

11 内部の電源ケーブルのプラグを FWx カードの電源ソケットに取り付けます。FWx のソケットを持ってプラグをソケットの中へしっかりと押し込んでください。電源ケーブルのプラグを FWx カードへ正しく取り付けると、黄色の電線が一番左側になります。

内部の電源ケーブルのプラグを取り付ける

12 1番目のミックス・エンジン・カード（開いたフロントパネルから見て1番後にあるカード）の [FireWire] と表記されたリボン・コネクタ・ソケットへ付属のリボン・ケーブルを取り付けます。ケーブルを取り付けるとき、リボン・ケーブル・コネクタのノッチを手前にしてください。



1番後のミックス・エンジン・カードへリボン・ケーブル・コネクタを取り付ける

13 リボン・ケーブルのもう一方を FWx カードのリボン・コネクタ・ソケットへ取り付けます。ケーブルを取り付けるとき、リボン・ケーブルのコネクタのノッチを上向きにしてください。

正しく取り付けられたリボン・ケーブルと電源ケーブル

14 ミックス・ラックのフェイスプレートをネジで取り付けます。

15 電源、FOH リンク、オーディオ、その他の各ケーブルをミックス・ラックへ接続します。

16 システムのすべてのコンポーネントの電源を入れます。8ページの「FWx カードのミックス・ラックへのインストレーションを確認する」に進んでください。

FWx カードのミックス・ラックへのインストレーションを確認する

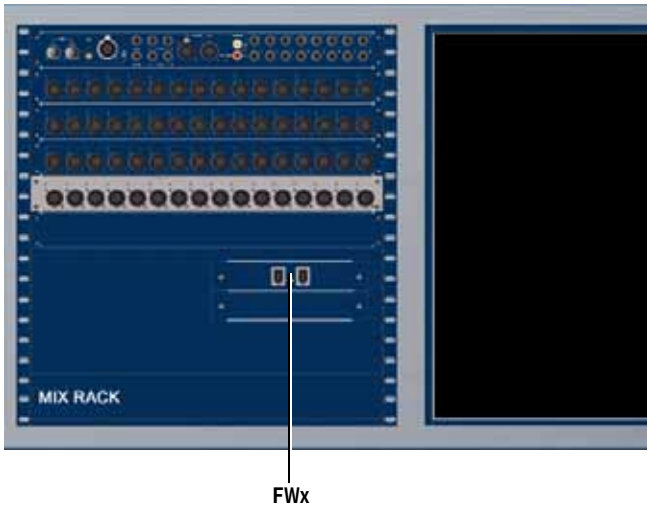
FWx カードをミックス・ラックへインストールしたら、カードが正しくインストールされているか確認できます。

FWx カードのインストレーションは以下の方法で確認します。

1 D-Show ソフトウェアで、[Options]>[Devices] ページへ移動します。

2 ミックス・ラックに FWx カードが表示されていることを確認します。正しくインストールされていれば、FWx カードが認識され、画面上のミックス・ラックに表示されます。

FWx カードが表示されない場合は、システムの電源を切って、すべてのケーブルと接続をチェックしてください。



[Devices] タブに表示された拡張カード・スロットの FWx カード

VENUE システムの電源と Pro Tools

VENUE と FWx と共に Pro Tools LE システムを使うときは、決まった順序で電源を入れる（切る）必要があります。

VENUE システムと Pro Tools システムを接続し、以下の順序で電源を入れてください。

1 VENUE システムに付属のユーザー・ガイドに従ってシステムの電源を入れてください。

2 システムの構成に従って以下のいずれかを行います。

・ 外付けの FireWire ハード・ドライブを使っていない場合は、FWx をコンピュータの FireWire ポートへ直接接続します。

または

・ 外付けの FireWire ハード・ドライブを使っていて、コンピュータに複数の FireWire ポートがある場合は、FWx をコンピュータの FireWire ポートの 1 つに接続し、コンピュータの別の FireWire ポートへ FireWire ドライブを接続して FireWire ドライブの電源を入れます。

または

・ 外付けの FireWire ハード・ドライブを使っていて、コンピュータに FireWire ポートが 1 つしかない場合は、FireWire ドライブをコンピュータへ直接接続し、FWx をドライブの FireWire ポートへ接続して FireWire ドライブの電源を入れます

FireWire ドライブのコンピュータへの接続について詳しくは、「003 & 003 Rack スタートアップ・ガイド」をお読みください。

3 Pro Tools のコンピュータを起動します。

4 Pro Tools を起動します。

VENUE システムと Pro Tools システムの電源を切るときは以下の順序で行います。

1 Pro Tools を終了します。

2 Pro Tools のコンピュータをシャットダウンします。

3 VENUE システムと Pro Tools のコンピュータの FireWire ケーブルの接続を外します。

4 VENUE システムに付属のユーザー・ガイドに従ってシステムの電源を切ってください。

必ず Pro Tools をシャットダウンし FireWire ケーブルの接続を外してから VENUE システムをシャットダウンしてください。

Pro Tools LE をインストールする

Pro Tools LE を初めてコンピュータにインストールする場合は、FWx オプションに付属の Pro Tools LE インストーラを使ってすべてのソフトウェアと FWx のレコーディング / プレイバック用ドライバをインストールしてください。Pro Tools LE のインストールと Pro Tools システムの設定については、Pro Tools インストーラ・ディスクに収録されている「003 & 003 Rack スタートアップ・ガイド」をお読みください。

FWx と Pro Tools LE の旧バージョンを使う

このセクションでは FWx と Pro Tools LE の旧バージョンを使うために必要なソフトウェアを説明します。

Pro Tools 7.1.1 以降 他のインストレーションは必要ありません。Pro Tools 7.1.1 以降では、Pro Tools の FWx 用ソフトウェア・ドライバが自動的にインストールされます。

Pro Tools 6.7-7.1.0 Pro Tools の FWx 用ソフトウェア・ドライバを手動でインストールする必要があります。インストールの手順は DVD ドライブ付きのコンピュータと CD-ROM ドライブ付きのコンピュータで異なります。

コンピュータに DVD ドライブが付いている場合は以下を行います。

・ FWx オプションに付属の Pro Tools インストーラ・ディスクを使います。「003 & 003 Rack スタートアップ・ガイド」の説明に従ってインストレーションと設定を行ってください。

コンピュータに DVD ドライブが付いていない場合は、Pro Tools LE インストーラ CD-ROM が必要です。

コンピュータに DVD ドライブが付いていない場合は以下を行います。

1 VENUE システムに電源を入れます。

2 FireWire ケーブルの一方を FOH ラックまたはミックス・ラックのバックパネルの FWx ポートへ接続します。もう一方を Pro Tools のホスト・コンピュータの FireWire ポートへ接続します。

3 CD-ROM ドライブに Pro Tools LE インストーラ CD-ROM を挿入します。

4 Pro Tools を起動します。起動時に Pro Tools LE が FWx を認識し、Pro Tools LE インストーラ CD-ROM から FWx のドライバを自動的にインストールします。

第 3 章：FWx を使う

概要

FWx を使うと、ライブ演奏のレコーディングができ、またあらかじめレコーディングした Pro Tools のトラックとライブ演奏をミックスすることもできます。また、このレコーディングとプレイバックの機能を組み合わせると、以前にレコーディングしたトラックをプレイバックすることによって仮想のサウンドチェックが行えます。

FWx を使ったレコーディングとプレイバック用のシグナル・ルーティングは、Pro Tools と D-Show の両方で行います。

D-Show のシグナル・ルーティング

FWx のアウトプット (レコーディング)

FWx は D-Show のチャンネルを Pro Tools へレコーディングするための 18 のアサイナブル・アウトプットを提供します。

D-Show のチャンネルをレコーディング用にアサインする方法については 11 ページの「FWx でレコーディングするための D-Show のシグナル・ルーティング」 をお読みください。

FWx のインプット (プレイバック)

FWx は Pro Tools のトラックをプレイバックするための 18 のアサイナブル・インプットを提供します。

Pro Tools のトラックを D-Show でのプレイバック用にアサインする方法については 13 ページの「FWx でプレイバックするための D-Show のシグナル・ルーティング」 をお読みください。

Pro Tools の設定

FWx カードへの接続は Pro Tools の [ハードウェア設定] ダイアログに反映され、FWx のインプットとアウトプットは Pro Tools の [I/O 設定] ダイアログに表示されます。これによってトラックのインプットとアウトプットを FWx へアサインできます。

FWx を使うときは、Pro Tools のセッションのビット・デプスとサンプルレートは 24 ビット /48 kHz に固定され、変更はできません。

Pro Tools システムの設定について詳しくは「003 & 003 Rack スタートアップ・ガイド」や「Pro Tools リファレンス・ガイド」をお読みください。

FWx でレコーディングするための D-Show のシグナル・ルーティング

FWx のチャンネルへは、ダイレクト・アウトプット、メイン、AUX、モノ・グループ、ステレオ・グループ、マトリックス・アウトプット、PQ アウトプットなど D-Show の任意のモノまたはステレオのチャンネルをアサインできます。[Patchbay]>[Outputs] ページを使って D-Show のアウトプット・バスやダイレクト・アウトプットを FWx のチャンネル 1-18 にルーティングしてください。

- ダイレクト・アウトプットを使うと、選択したピックオフ・ポイントからチャンネルを別々にレコーディングできます。
- メイン、AUX、グループ、マトリックス、PQ のアウトプットを使うと、ステレオ・メイン・ミックス、1 つまたは複数のステレオ・サブミックス、またはこれらの任意の組み合わせを FWx の最大チャンネル数までレコーディングできます。

⚠ *FWx を使ってレコーディングとプレイバックを行うようにパッチベイを設定している場合は、Pro Tools のトラックをレコーディング可能にする前に、フィードバック・ループが起きないようトラックのアウトプットとを確認してください。*

マルチトラック・レコーディング用に複数のダイレクト・アウトプットを Pro Tools へルーティングするには:

1 D-Show のパッチベイの [Directs] タブをクリックします。

2 ルーティングするチャンネルまたはバスのタブ（グリッドの左）をクリックします。

3 グリッド右上の [Pro Tools] タブをクリックし、使用できる FWx のチャンネルを表示します。

4 チャンネル・グリッドをクリックして、チャンネルまたはバス（左）を FWx のチャンネル（上）へアサインします。

ダイレクト・アウトプットを FWx のチャンネルへルーティングする

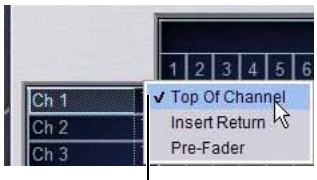
5 [Direct Out]セクションの[In]ボタンをクリックしてアクティブにし、画面上のエンコーダをドラッグしてダイレクトアウトのレベルを調整します。

パッチベイの [Directs] ページでダイレクト・アウトプットをアクティブにする

6 パッチベイのピックオフ・コラムをクリックして、以下の各ダイレクト・アウトプット用ピックオフ・ソースを指定します。

- トップ・オブ・チャンネル（表示は [T]）
- プリ・フェーダー（表示は小文字の [p]）
- ポスト・フェーダー（表示は大文字の [P]）

インプット・チャンネルと FX リターン用のダイレクト・アウトプットのピックオフポイントは、[Options]>[Pickoffs] ページですべてプリ・フェーダーまたはポスト・フェーダーに設定できます。



クリックしてピックオフ・メニューを表示する

チャンネルのピックオフ・ソースを指定する

7 Pro Tools のトラックをマルチトラック・レコーディング用に設定します。

ステレオ・レコーディング用に L/R メイン・ミックスを Pro Tools へルーティングするには：

1 D-Show のパッチベイの [Outputs] ページへ移動します。

2 チャンネル・グリッドの左の [Mains] タブをクリックします。

3 グリッド右上の [Pro Tools] タブをクリックし、使用できる FWx のチャンネルを表示します。

4 チャンネル・グリッドをクリックして、メインの [Left] と [Right] のアウトプットを FWx のチャンネル 1-2 にルーティングします。

メイン・バスを FWx のチャンネルへルーティングする

5 Pro Tools のトラックをステレオ・レコーディング用に設定します。

アウトプット・バスを使ってサブミックスを Pro Tools へルーティングするには：

1 D-Show のパッチベイの [Outputs] ページへ移動します。

2 グリッドの左のメイン、AUX、グループ、マトリックス、または PQ をクリックして使用するバスを表示します。

[Outputs] タブのアウトプット・バス用ピックオフ・ポイントは常にポスト・フェーダーです。アウトプット・バスをプリ・フェーダーでレコーディングするときは [Directs] タブを使ってピックオフ・ポイントを選択してください。

3 グリッド右上の [Pro Tools] タブをクリックし、使用できる FWx のチャンネルを表示します。

4 グリッドをクリックして、バス（左）を FWx のチャンネル（上）へアサインします。

D-Show ソフトウェアは、FWx のチャンネルを使った Pro Tools でのインサート・プロセッシングには対応していません。

5 Pro Tools をレコーディング用に設定します。

FWx でプレイバックするための D-Show のシグナル・ルーティング

Pro Tools から D-Show のインプット・チャンネルや FX リターンにチャンネルをルーティングすると、あらかじめレコーディングしたトラックをミックスに含めることができます。この機能を使うと、仮想のサウンドチェックを行ったり、あらかじめレコーディングしたクリック・トラックを演奏中に使ったり、D-Show を使って Pro Tools のセッションをミックスダウンしたりできます。

[Patchbay]>[Inputs] ページを使って FWx のチャンネル 1-18 を D-Show のインプット・チャンネルや FX リターンへルーティングしてください。

FWx のチャンネルをインプット・ チャンネルや FX リターンへルーティングするには：

1 D-Show のパッチベイの [Inputs] ページへ移動します。

2 グリッドの左のチャンネルまたは FX リターンをクリックして使用するチャンネルを表示します。

3 グリッド右上の [Pro Tools] タブをクリックし、使用できる FWx のチャンネルを表示します。

4 グリッドをクリックして FWx のチャンネルを D-Show のインプット・チャンネルや FX リターンへルーティングします。

プレイバック用に FWx のチャンネルを D-Show の FX リターンへルーティングする

5 ACS またはチャンネル・インプットの画面から、必要に応じて FWx の各チャンネルのルーティングを行ってください。

- ライブ演奏のメイン・ミックスに FWx のオーディオが含まれるようメイン L/R バスへアサインします。
- サブミキシングやモニター用にグループ、AUX、マトリックス、または PQ のバスへアサインします。

FWx のチャンネルは、どこにもアサインされていなくてもソロ・バスとヘッドフォンでモニターできます。

⚠ *フィードバック・ループを避けるため、レコーディング可能な Pro Tools のトラックへはレコーディングとプレイバックのルーティングを同時に行わないでください。*

D-Show を通して FWx のレコーディングをモニターする

D-Show を通してレコーディングをモニターするときは、2 つのインプット・チャンネルまたは FX リターンを通してメイン・ステレオ・ミックスがプレイバックされるよう Pro Tools のシグナル・ルーティングを設定します。D-Show ではインプットや FX リターンのシグナル・ルーティングはアサインせず、ソロを使ってレコーディングをモニターします。

D-Show から FWx のレコーディングをモニターするには：

1 Pro Tools でレコーディング可能なトラックのアウトプット・アサインメントが以下のとおりになっていることを確認します。

- Pro Tools がレコーディングにのみ使用されている場合は、レコーディングするトラックが FWx のチャンネル・ペアにアサインされていることを確認します。

または

- Pro Tools をオーディオのレコーディングとプレイバックの両方に使用している場合は、フィードバック・ループが起きないようにアウトプット・ルーティングを確認します。レコーディング可能なトラックがいずれかのプレイバック・トラックと同じアウトプットにアサインされていないことを確認してください。レコーディング・トラックのアウトプットは独自の FWx のチャンネル・ペアへアサインしてください。

2 パッチベイで、FWx のチャンネルを D-Show のインプット・チャンネルまたは FX リターンへルーティングします。13 ページの「FWx のチャンネルをインプット・チャンネルや FX リターンへルーティングするには：」をお読みください。

3 ACS またはチャンネル・インプット画面を使って、FWx のレコーディングをモニターしているチャンネルが以下の D-Show のバスやアウトプットへアサインされていないことを確認してください。

- グループ・バス・インジケータが点灯していないことを確認してください。点灯または点滅しているインジケータがあれば押してアサインを解除してください。
- 複数のチャンネルを選択した場合は、LED が点滅して選択したチャンネルのアサインメントの状態が異なっていることを示します。
- 点滅している LED を 1 回押して、すべて同じ設定にリセットします（通常はアサインされている状態）。もう 1 回押すと、選択されているチャンネルすべての状態が同時に切り替えられます。

同期とタイムコード

FWx オプションは D-Show と Pro Tools の間でオーディオ・データのみを送受信します。

Pro Tools を MIDI タイムコードのマスターまたはスレーブとして使いたい場合は、Pro Tools のホスト・コンピュータとの MIDI 接続が別途必要になります。Pro Tools と共に USB MIDI インターフェースを使って、そのポートを FOH ラックやミックス・ラックの MIDI イン / アウト・ポートへ接続してください。同期とタイムコードの機能について詳しくは、VENUE システムのユーザー・ガイドをお読みください。